

# 堆肥づくり

## Q&A

その問題  
どうやって  
解決したの？



市の補助制度を利用してコンポスターを購入した方を対象にアンケートを実施しました。

コンポスター使用中に発生した問題と、解決方法についてご紹介します。

※投入する生ごみや、コンポスターの管理方法はそれぞれ異なるため、必ずしも同じ方法で問題が解決するわけではありません。

### Q 臭いが気になるときや、虫やハエが発生した場合どう対処しましたか？

- A**
- 消臭剤や防虫剤を容器内に吊りました。
  - 粉末状の発酵促進剤を投入しました。
  - 土の他に砂も投入しました。
  - 魚は熱湯をかけてから入れるなど、熱処理してから投入するよう心がけました。
  - くん炭を入れました。

### Q ネズミやモグラなど小動物への対策はしましたか？

- A**
- 土に穴を見つけたら石で塞ぎました。
  - 小動物の経路と思われるボコボコ、モコモコした土を踏み潰しました。
  - 野菜くずだけ入れるようにしました。
  - 生ごみを投入する際、容器に振動を与えるようにしました。

### Q 冬期間の堆肥化は、夏期と変わらない方法で行っていましたか？

- A**
- 冬期間に発酵のスピードが落ちるのはやむを得ないので、発酵促進剤を通常より多めにかけて気長に発酵を待ちました。
  - 米ぬかも混ぜて発酵を促しました。
  - 除雪などの管理がしやすいよう、家の近くに容器の設置場所を変更しました。

### Q 気を付けた投入物がありますか？

- A**
- ジャガイモの皮／万が一発芽しないよう、芽を取り除いてから入れました。
  - 雑草／雑草が根付かないように枯れたものを入れました。また、根についた土を落としてから投入しました。

環境にやさしく 野菜作りに使える

# コンポスターを活用した生ごみ堆肥づくり



## コンポスターに投入するもの

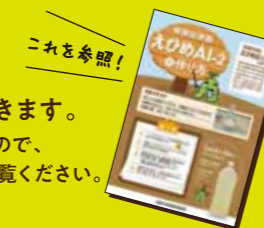
- 家庭から出た生ごみ  
(野菜くず、果物の皮、ごはん、パン、肉、魚、食べ残しなど)
- 落ち葉、雑草などの庭ごみ
- 土



## 分解・発酵を助けるもの

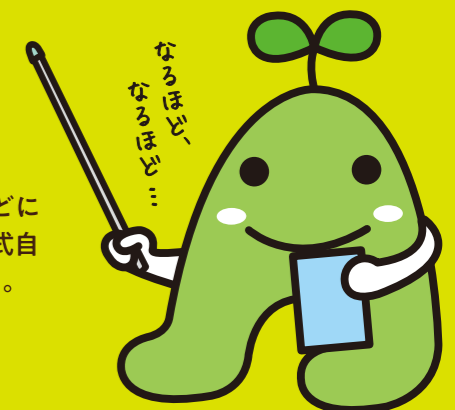
### 発酵促進剤

ホームセンターなどで購入できます。ご自宅で簡単に作ることもできますので、詳しくは別紙「えひめの作り方」をご覧ください。



### 米ぬか

土がない時や冬期間などに発酵を助けます。コイン式自動精米所で入手できます。



## コンポスターに入れてはいけないもの・向かないもの

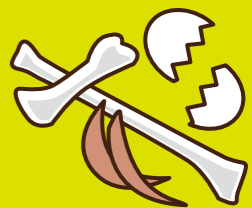
### 【入れてはいけないもの】

- 腐った生ごみ
- ビニール袋
- ラップ
- シート
- アルミ容器
- アルミ箔
- 割りばし
- 爪楊枝
- 串
- 果物やかぼちゃの種 など



### 【向かないもの】

- 卵のカラ
- 玉ねぎの茶色い皮
- スイカやメロンの皮 (小さく切るとOK)
- どうもろこしの芯
- 塩分を多く含むもの (漬物・塩辛など)
- 動物や魚の骨
- 貝類
- ぬか床
- 小枝 など



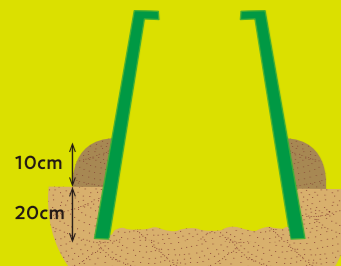
# 生ごみ堆肥の作り方



STEP  
1

## 容器を設置する

- 日当たりが良く、水はけの良い場所に設置しましょう
- 設置場所をコンポスターの底の大きさに掘り返します。深さは20cm位。
- ネズミ、モグラの侵入が懸念される場合は、消石灰や目の細かい金網などを敷くと効果的です。
- コンポスターを設置します。風で飛ばないように10cm程度周りに盛り土して踏み固めましょう。周囲に排水溝を作ると水はけがよくなります。



ワンポイントアドバイス  
コンポスターは日当たりの良い所に設置する

容器内の温度を高く保つことで分解が進みます。また、温度が高いと虫などの発生を防ぐことにもつながりますのでコンポスターは日当たりがよく、水はけの良い所に設置しましょう。

STEP  
2

## 生ごみの投入



- 生ごみは水切りして、早めにコンポスターに投入します。発酵を早めるため、なるべく小さくして投入しましょう。
- 土を上から1~2cm程度かぶせ、発酵促進剤(30ml程度)を振りかけます。
- 以上を繰り返します。生ごみと土のミルフィーユ状になります。

ワンポイントアドバイス

### 生ごみの水分がポイント

容器内の水分が多いと虫や悪臭の原因となります。反対に水分が少ないと、微生物が十分に働くことができず分解が進みません。適度な水分の目安は、手でぎゅっとしぼって水気を感じる程度(50~60%)です。水がしたたり落ちる場合(75~85%程)は水分過多です。水分調整には、乾いた土、落ち葉、干した雑草などを投入することも効果的です。

### 発酵促進剤は多めに

生ごみの投入だけでは思うように堆肥化が進みません。発酵促進剤などを多めに投入することで分解が進みます。なお、米ぬか単体で投入すると、悪臭や虫が発生する場合がありますので、発酵促進剤と一緒に投入しましょう。



STEP  
3

## 熟成させる



- 容器の2/3程度になったら生ごみの投入を止め、堆肥の熟成を行います。
- 熟成中も2週間に1回程度スコップでかき混ぜることで酸素を含んだ状態が保たれます。
- 生ごみの形がなくなり、黒くなったら堆肥の出来上がりです。熟成期間は、季節や温度、生ごみの質、量などにより異なりますが、夏で2か月、冬期間で半年程度です。

※コンポスターの熟成には時間がかかりますので、容器が2つあると便利です。また、堆肥をさらに熟成させる場合は、コンポスターを引き抜いた後、土をかぶせた状態にしておくのが効果的です。

ワンポイントアドバイス

### 空気を入れ酸素を十分に

悪臭の原因物質である酪酸(汗くさい臭い)やメチルメルカプタン(腐った玉ねぎのような臭い)、トリメチルアミン(腐った魚の臭い)などは、生ごみが酸素がない状態で分解し発生するものです。容器をスコップなどでかき混ぜ、十分な空気を供給してあげることで、生ごみの分解が促進するほか、悪臭の抑制にもつながります。

## コンポスターでの堆肥化のコツ

### カビの色で発酵の進捗を確認!

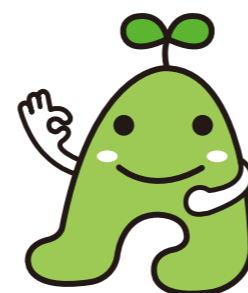
白カビの発生は発酵が順調に進んでいる証拠です。青カビ・赤カビは、発酵促進剤が少し不足しています。臭いも少しします。黒カビは、臭いがきつくと発酵より腐敗が進んでいます。発酵促進剤を多めに投入し、容器内をかき混ぜることで改善されます。

### 臭いや虫対策に発酵促進剤を活用してみよう

発酵促進剤をたくさん振りかけ、乾燥した土を、1cm程の厚さで全面に振りかけることによって、臭いはほとんど解消されます。また、虫も発酵促進剤を振りかけることで、コンポスター内の温度が上がり死滅します。(60℃以上になると、虫や虫の卵は死滅します。)



使ってみよう!



完成した堆肥は、家庭菜園やプランター植えなどに活用してみましょう。

[使い方]

- ①完成した堆肥と土をよくなじむように混ぜ、2週間程度おく。
- ②生ごみ堆肥は野菜の育成に必要なさまざまな養分が豊富に含まれています。手作りの堆肥を活用して野菜作りに挑戦するのもオススメです。

[注意]

生ごみ堆肥は少し酸性寄りの堆肥になっています。植える作物にもよりますが、石灰などで調整して活用してください。

※注意! 有用な微生物や虫を殺してしまうため、殺虫剤や農薬の使用はやめましょう。